



TOHOKU  
UNIVERSITY

URA / 知の創出センター 連携企画

「東北大学文系4研究科 人文・社会科学における知の創出セミナー」

# Quattro Seminars

第5回

## 人文学 (humanities) の立ち位置

— 科学史・科学哲学の視点から —

講師

教養教育院 総長特命教授

野家 啓一

日時

2015.  
**2/28** (土) 16:00 ~ 17:30

※懇親会 (17:30~19:00) 懇親会費：500円

会場

東北大学川内南キャンパス  
文科系総合研究棟11階  
大会議室



クワトロセミナー事務局：

河合 晃一 (教育学研究科特任助教 / 文系URA)

塩谷 芳也 (知の創出センター特任助教、プログラムコーディネータ)

詳細情報URL：

[http://www.tfc.tohoku.ac.jp/  
quattroseminar/](http://www.tfc.tohoku.ac.jp/quattroseminar/)

URA/知の創出センター連携企画「東北大学文系4研究科 人文・社会科学における知の創出セミナー」(通称：Quattro Seminars(クワトロセミナー))は、東北大学での人文・社会科学の研究力強化を目指して、全学的な視点から領域横断的な研究交流を行うセミナーです。



TOHOKU FORUM  
FOR CREATIVITY

URA / 知の創出センター 連携企画

「東北大学文系4研究科 人文・社会科学における知の創出セミナー」(通称:Quattro Seminars)

第5回

日時 |

2015年2月28日(土)16:00 -17:30

場所 |

東北大学川内南キャンパス文科系総合研究棟11階 大会議室

タイトル |

人文学 (humanities) の立ち位置 — 科学史・科学哲学の視点から —

講師：野家 啓一（教養教育院 総長特命教授）

司会：塩谷 芳也（知の創出センター 特任助教、プログラムコーディネータ）

概要 |

もともと人文学 (humanities) と自然科学とは対立するものではありませんでした。そのことは「自由学芸 (liberal arts)」が人文系の三科と理系の四科から成り立っていたことからわかります。また自然科学のルーツは自然哲学 (natural philosophy) と自然史 (natural history) にほかなりません。しかし、二つの科学革命を経て、自然科学と人文学は方法論的にも大きく乖離して現在にいたっています。本講演では、その分裂の過程を歴史的にたどりながら、両者を今日どのように架橋すべきか、また人文学が現代社会において果たす意義と役割について考えます。

講師紹介 | 野家 啓一（高度教養教育・学生支援機構教養教育院 総長特命教授）

1949年生まれ。専門は科学哲学。東京大学大学院理学系研究科（科学史・科学基礎論）博士課程中退。南山大学専任講師、プリンストン大学客員研究員、東北大学大学院文学研究科教授などを経て現職。近代科学の成立と展開のプロセスを、科学方法論の変遷や理論転換の構造などに焦点を合わせて研究している。また、フッサールの現象学とウィトゲンシュタインの後期哲学との方法的対話を試みている。主な著書に『科学の解釈学』、『パラダイムとは何か』、『物語の哲学』、『言語行為の現象学』などがある。日本哲学会会長（2003年6月－2007年5月）。日本学術会議連携会員。

講演会・懇親会への参加申込 | クワトロセミナー事務局（河合 / 塩谷）

**quattro\_admin@ml.tohoku.ac.jp**

\*当日会場での申込も可能です。

詳細情報URL |

**<http://www.tfc.tohoku.ac.jp/quattroseminar/>**